

序

漢方の魅力は、病気がよく治るという点であり、どこを探っても、不思議な宝がいっぱい埋れているという点である。

近代医学で容易に治らない病気が、漢方でよく治るという点と、いまひとつ、漢方で病気は治るが、なぜ治るかが明らかになっていない点で、このなぞを解くために、高山先生はよき本を書かれた。

『辨証圖解・漢方の基礎と臨床』〈症状・病名と常用処方〉という本は、読みはじめると、やめられないような力で読者を引っばっていきながら、漢方のなぞを解く。近年、漢方の書物はいろいろと出たが、興味深く、理論づけし、平明に処方解説して圖解し、要点を突いて書かれたものは、本書をおいて他にない。

漢方の臨床に研究に、真摯に没頭してこられた高山先生の姿をいまここに見る。

本書は、まことに漢方のよき基礎理論書であるとともに、よき臨床医術書である。

漢方臨床家に広く一読をおすすめしたい。

平成十五年七月吉日

漢方三考塾主宰 寺 師 睦 宗